

*Longman Dictionary of Contemporary English*⁵ (2009) と *Cambridge Advanced Learner's Dictionary*³ (2008) の比較

—Common Error / Mistake Notes について—

藤本 和子

1 *Longman Dictionary of Contemporary English* (以下 *LDOCE*) の第5版が2009年に出版された。*LDOCE*の初版は1978年であるから、第5版の出版は初版からおおよそ30年である。*Cambridge Advanced Learner's Dictionary* (以下 *CALD*) 第3版は、*LDOCE*⁵出版の前年2008年に出版されている。*CALD*の初版は1995年に *Cambridge International Dictionary of English* として出版されている。両辞典は、five English monolingual learner's dictionaries、いわゆる 'Big five' と呼ばれる学習者用英語辞典のうちの2つである。

*LDOCE*⁵と *CALD*³はそれぞれ、the Longman Learners Corpus、the Cambridge Learner Corpus という学習者コーパスに基づき、学習者によく見られる誤りについてのノート¹⁾を掲載している。このノートは、*LDOCE*⁵では、Introduction (pp.viii-ix) において、*LDOCE*⁵の 'special' な特徴の一つに挙げられており、*LDOCE*⁴に引き続き、△の記号が²⁾付されて掲載されている。*CALD*³のカバーでは、'NEW!' と銘打ち、ボックス (囲み欄) に入った学習者によく見られる誤りについてのノートを紹介している。*CALD*²にも、学習者によく見られる誤りについてのノートは見られたが、*CALD*³では、新たに加えられたり、あるいは内容が書き換えられて掲載されている。さらに巻末ページ (pp.EH13-EH17) には、**Common mistakes**として、誤りのタイプ別に、'The Top 10 Mistakes' の具体例が挙げられ

ている。

このように、両辞典とも、それぞれ独自の学習者コーパスを利用しながら、学習者によく見られる誤りを掲載し、学習者がこれらの誤りを避けられるよう配慮している。本稿では、*LDOCE*⁵と*CALD*³に掲載されている学習者によく見られる誤りのノートと比較し、両辞典において、それぞれどのようなノートが掲載されているか、そして両辞典が掲載する誤り項目に共通するものと、そうでないものがあるかを調べてみたいと思う。

2 まず、*LDOCE*⁵と*CALD*³それぞれの主な特徴について見てみよう。学習者によく見られる誤りについてのノートは後の章で詳しく見ていくので、ここでは主としてそれ以外の特徴を取り上げることにする。

2.1 *LDOCE*⁵は、3億3000万語の the Longman Corpus Network を用いて編纂されている。語の定義は、学習者が理解しやすいように、およそ2000語からなる the Longman Defining Vocabulary によってなされており、語義の多い語にはサインポストが付けられている。また、the *Longman Communication 3000* として、話し言葉、書き言葉において、最も使用頻度の高い3000語を選び、これらの見出し語は、赤字で示され、**S1**、**S2**、**S3**、**W1**、**W2**、**W3**のように赤色で記号が付けられている。**S1**、**W1**は、それぞれ話し言葉、書き言葉で最も頻度の高い1000語に入ることを意味する。例えば、*culture* *n*は、**S2**、**W1**となっている。学習者向けの他の辞典にも、語の使用頻度情報は見られるが、話し言葉、書き言葉それぞれの使用頻度情報を、このように色付きで強調表示するのは、現在のところ Longman dictionaries ならではの特徴である。さらに、頻度情報を提示するグラフが掲載されている語もある。例えば、*bit* *n*は、この語の話し言葉と書き言葉における頻度情報がグラフで表わされており、書き言葉よりも話し言葉においてはるかによく使用されることがわかる。これらの頻度情報により、学習者はどのような語を習得すべきかとともに、語の使い方を知ることができる。

*LDOCE*⁵では、**COLLOCATIONS**、**THESAURUS**、**REGISTER**、**GRAMMAR**

の4種類のボックスに入ったノートが設けられている。中でも、**COLLOCATIONS**と**THESAURUS**のボックスは、それぞれの囲み枠を青味がかった紫と赤みがかった紫にするなど目立つように工夫がなされている。コロケーションは、*LDOCE*⁴でもボックスに入ったノートが設けられているが、*LDOCE*⁵では、リニューアルされ、共起する語の品詞別に、例文とともに情報が提示されている。*LDOCE*⁵は、collocation (連語)、synonyms (同義語)、register (使用域)の3つを‘three key areas’として重点的に扱っているとの記述が Introduction にあるが、このことは、**COLLOCATIONS**、**THESAURUS**、**REGISTER**のボックスの設置から見ても明らかである。*LDOCE*⁵には、65,000以上のコロケーション情報や、18,000以上の同義語、反意語、関連語の情報が掲載されている。語の使い方や、同義語の使い分け、そして状況による適切な語の選択は、英語での円滑なコミュニケーションにおいて必要なことであり、学習者にとって役立つ情報であろう。

2.2 *CALD*³は、10億語を超える the Cambridge International Corpus のデータに基づいて編纂されている。*CALD*³では、*CALD*²に加え、1000以上の新語(句)が掲載されており、巻末ページ(pp.EH18-EH23)で、これらのうちの120語(句)が、**The environment**、**The Internet**、**Food and drink**などの8つのテーマ別に、語義とともにリストアップされている。例えば、**The environment**は、Environmental problemsとEnvironmental solutionsにさらに分けられ、前者には、**carbon footprint**、**season creep**などの環境問題、後者には**biofuel**、**carbon offsetting**などの環境問題の解決策に関するものが挙げられていて興味深い。**Food and drink**のカテゴリーでは、日本語の**nigiri**も挙げられている。巻末の新語リストを活用することにより、世界の関心事や動向に関する語を身に付けることができると言えよう。語義においては、‘guidewords’と呼ばれるサインポストが付けられ、学習者が語義を見つけやすいように工夫がなされている。さらに、頻度情報として、学習にとって重要な語は青字で示され、それらの語の意味にも頻度情報が示されている。つまり、**E** (Essential) のラベルが付いている意味は、効果的にコミュニケーションを図るために知っておく必要があるもので、極めてよく用いられる、あるいは中核となる概念

を表わすものである。❶ (Improver) が付されている意味は、英語母語話者がよく使用するもので、❷ が付されている意味ほどはよく用いられないが、役に立つ概念を表わすものも含まれている。❸ (Advanced) が付いている意味は、上級レベルの英語学習者がより流暢で自然な英語を用いるために習得することを目指すべきものである。これらは、単に使用頻度が高いということではなく、学習者の必要性も考慮して選ばれている。例えば、*or conjunction* では、第1義 ‘used to connect different possibilities’ と第2義 ‘used after a negative verb to mean not one thing and also not another’ には❷、第3義 ‘if not’ には❶、第4義 ‘used to show that a word or phrase means the same as, or explains or limits or corrects, another word or phrase’ には、❸ が付されている。

CALD³では、**Common mistake**、**Other ways of saying ... [Thesaurus panels]**、**Word partners for ...**、**Usage note**の4種類のボックスが設けられている。**Other ways of saying ... [Thesaurus panels]** は、the Cambridge International Corpus と the Cambridge Learner Corpus を比較して、学習者が母語話者よりも使用しすぎる傾向のある語について、その代わりとなる語が例文とともに掲載されている。**Word partners for ...** は、コロケーションをフレーズで示している。これらは、学習者が、語彙を増やすとともに、適切でより自然な語の選択をするのに役立つと言えよう。

3 第1章でも述べたように、LDOCE⁵とCALD³の学習者によく見られる誤りについてのノートは、ピアソン・ロングマン社とケンブリッジ大学出版局がもつ独自の学習者コーパスに基づいている。両者のウェブページ²⁾及び、両辞典に掲載されている情報によると、the Longman Learners Corpus は、世界中の英語学習者によって書かれたエッセイや試験答案からなる1000万語のデータベースである。国籍、英語学習レベルによってコード化されており、特定の国籍の特定の学習レベル別に、それぞれのグループに特有の誤りや傾向、また同時に、学習者全体の誤りや傾向を掌握できる。一方、the Cambridge Learner Corpus は、Cambridge ESOL³⁾ English exams の世界中の受験者の答案から収集したものである。ウェブページの情報によ

ると、その規模は現在(2009年5月)のところ、3000万語を超え、190か国、130の異なる母語をもつ95,000人の学習者の試験答案データから構成されており、さらに拡大を続けている。その中で、50万語以上が日本人学習者からのデータである。それぞれが、学習者の母語、国籍、英語のレベル、年齢などの情報とともにコード化されている。ただし、CALD³のIntroduction (pp.Ⅷ)には、The Cambridge Learner Corpus は、2500万語以上からなり、1000万語以上がコード化されていると記載されていることからすると、LDOCE⁵とCALD³の編纂された時点では、両コーパスともに、コード化された1000万語規模のデータベースと考えられるだろう。

これらの学習者コーパスの分析で、特定の学習者グループの傾向や、学習者が何を習得して何を習得していないかをつかむことができ、学習者が典型的な誤りを避けられるように、学習者によく見られる誤りについてのノートの記述に生かされている。

4 LDOCE⁵とCALD³それぞれの学習者によく見られる誤りのノートについて見てみよう。

4.1 LDOCE⁵では、△の記号が付された340の学習者によく見られる誤りのノートが、本文に組み込まれて、あるいは、COLLOCATIONS ボックスと GRAMMAR ボックスの中に、そして中央に設けられた **Formality in spoken and written English** セクションに見られる。COLLOCATIONS ボックス中のノートには、**family n**に見られるように、文構造も含めての誤りを避けるよう注意を促すものもある。

△ Do not say my family is five , my family is five members/people , or my family is of five members/people . Say **there are five people in my family**.

また、一つの語が2つ以上の△が付いたノートをもつ場合もある。

4.2 CALD³には、‘... the evidence of the *Cambridge Learner Corpus* means

that our notes are based on real data, not on conjecture or wishful thinking!' (p.Ⅷ) (下線筆者による)と記載されており、CALD³が掲載する学習者によく見られる誤りは、学習者コーパスに基づくものであることを強調している。CALD³では、学習者によく見られる誤りについてのノートが、**Common mistake** というボックスの中に見られる。**Common mistake** ボックスの総数は385である。一つの**Common mistake** ボックスに学習者が犯しやすい誤りの項目が複数掲載されている場合もある。このため、LDOCE⁵とCALD³それぞれの掲載する学習者の誤りの項目数は、LDOCE⁵の△付きノート数とCALD³の**Common mistake** ボックス数で比較することはできない。

CALD³は、巻末ページで、**Common mistakes** として、綴りに関するもの、不可算名詞に関するもの、不規則複数に関するもの、不規則動詞に関するもの、コロケーションに関するもの(1 動詞+名詞、2 形容詞+名詞)、V-V結合(Verb+Verb Combination)に関するものの6つのタイプ別に、'The Top 10 Mistakes' の具体例を挙げている。本体の**Common mistake** ボックスに入ったノートにもこれら6つのタイプの誤りは取り上げられている。ただし、トップ10の誤りとして挙げられている項目すべてが、**Common mistake** ボックス中に掲載されているわけではない。例えば、コロケーションに関するタイプの「形容詞+名詞」のパターンの10項目については、**Common mistake** ボックスにノートは見られない。学習者の誤りがよく見られる項目である以上、**Common mistake** ボックス中に注意を促すノートがあってもよいのではないだろうか。

CALD³巻末ページの**Common mistakes** のそれぞれのタイプ別に、最も誤りの多いトップ10の中からトップ3を挙げてみよう。すべて上級レベルの学習者の試験答案に見られる誤りである。

綴りに関するもの(ゴシック体は学習者が間違えやすい箇所を表わす)

1位 accommodation 2位 which 3位 government

不可算名詞に関するもの(学習者が数えられる名詞として間違えやすい名詞)

1位 information 2位 advice 3位 transport

不規則複数に関するもの(学習者が複数形を間違えやすい名詞)

1位 life 2位 child 3位 belief

不規則動詞に関するもの(ゴシック体は学習者が間違えやすい箇所を表わす)

1位 write — writing 2位 pay — paid 3位 occur — occurred

コロケーションに関するもの(本稿では「動詞+名詞」のパターンのみ取り上げる)

「動詞+名詞」

1位 Noun: **experience**

(×) *I know several people who have made the same experience.*

(✓) *I know several people who have **had** the same experience.*

2位 Noun: **friend**

(×) *I found it difficult to find friends and felt very lonely.*

(✓) *I found it difficult to **make friends** and felt very lonely.*

3位 Noun: **research**

(×) *It is impossible to make any research without the Internet.*

(✓) *It is impossible to **do any research** without the Internet.*

V-V結合に関するもの

1位 Main Verb: **suggest**

(×) *I suggest to send our colleagues on a similar course.*

(✓) *I **suggest (that) we send** our colleagues on a similar course.*

2位 Main Verb: **recommend**

(×) *I recommend to employ a part-time assistant.*

(✓) *I **recommend employing** a part-time assistant.*

3位 Main Verb: **look forward to**

(×) *I look forward to hear from you.*

(✓) *I **look forward to hearing** from you.*

参考までに述べるならば、V-V結合に関するものの第9位に、**can modal verb**の後ろにto不定詞を用いるという学習者の誤りがランクされており、この誤り項目は、**can**のエントリー中の**Common mistake**ボックスにも掲載されている。助動詞の後ろにくる動詞は原形であるという文法事項は、基本的なものであるが、the Cambridge Learner Corpusのデータによると、上級レベルの英語学習者にもこのタイプの誤りが見られることがわかる。

5 この章では、*LDOCE*⁵と*CALD*³の学習者によく見られる誤りについてのノートで取り上げられている誤りの項目を比較する。本稿では、*LDOCE*⁵の本体中央に設けられた**Formality in spoken and written English**セクション以外の△付きノートと、*CALD*³の**Common mistake**ボックス中のノートで取り上げられている学習者によく見られる誤りを、綴りに関するもの、語の混同に関するもの、コロケーションに関するもの、その他の語法・文法に関するもの、社会・文化に関するものの5つのタイプに大きく分類する。*CALD*³については、前述の巻末ページの**Common mistakes**における誤りの分類とは異なることをお断りしておく。学習者によく見られる誤りの項目の中には、どのタイプに入るか判断しがたいものもあり、両辞典における各タイプの項目数を数えることは避けることにする。

特に、その他の語法・文法に関するものに注目してみたい。まず、このタイプ以外の4つのタイプの誤りについて、5.1で例を挙げ、5.2で、その他の語法・文法に関する誤りの例を見てみよう。以下、学習者によく見られる誤りの各項目を取り上げ

る際は、そのノートをもつ見出し語で呼ぶことにする。

5.1 *LDOCE*⁵と*CALD*³の学習者によく見られる誤りのタイプのうち、綴りに関するもの、語の混同に関するもの、コロケーションに関するもの、社会・文化に関するものについて見てみよう。それぞれのタイプの誤りの項目についてのノートが、*LDOCE*⁵にはあるが、*CALD*³にはない項目、*CALD*³にはあるが、*LDOCE*⁵にはない項目、*LDOCE*⁵と*CALD*³の両方にある項目について例を挙げてみよう。

5.1.1 *LDOCE*⁵にはあるが、*CALD*³にはない項目

綴りに関するもの

practice *n*

In British English, the verb is always spelled **practise** . . . In American English, both noun and verb are spelled **practice**.

語の混同に関するもの

このタイプには、綴りが似ていて混同しやすいもの (e.g. **stationary** *adj*/stationery)、意味の混同 (e.g. **motor** *n*/engine)、品詞の混同 (e.g. **lowly** *adj*/low) などがある。(()) 中のゴシック体の語がノートをもつ

ここでは意味の混同についてのものを見てみよう。

sting *v*

A bee, wasp, scorpion, or plant can **sting** you. For a mosquito or snake, use **bite**.

コロケーションに関するもの

ここでは、「動詞+名詞」のパターンに絞って例を見てみよう。

victory *n*

Do not say 'get victory' or 'get the victory'. Say **win a victory** or **win victory**.

社会・文化に関するもの

chairman *n*

Many people use **chairperson** or **chair** instead, to avoid suggesting that this person must be a man.

5.1.2 CALD³にはあるが、LDOCE⁵にはない項目

綴りに関するもの

full-time *adj, adv*

Remember that when we use **full-time** as an adjective, it is most usual to keep the hyphen '-' between 'full' and 'time':

I am looking for a full-time job for the summer holidays.

I am looking for a full-time job for the summer holidays.

その他にも、例えば、最も学習者が綴りを間違えやすい50語に含まれるものには、例えば **committee** *n* のようにノートにその旨の情報が記されている。

committee *n*

Warning: Check your spelling!

Committee is one of the 50 words most often spelled wrongly by learners.

Remember: the correct spelling has 'mm', 'tt' and 'ee'.

語の混同に関するもの

このタイプには、綴りが似ていて混同しやすいもの (e.g. **to prep**/too)、意味の混同 (e.g. **possibility** *n*/opportunity)、品詞の混同 (e.g. **lost** *adj*/loss) などがある。

(()) 中のゴシック体の語がノートをもつ

ここでは意味の混同についてのものを見てみよう。

class *n*

Warning: choose the right word!

To talk about a room where students are taught, don't say 'class', say

classroom:

The classes had central heating and big windows.

コロケーションに関するもの

ここでは、「動詞+名詞」のパターンについて例を見てみよう。

suggestion *n*

Warning: Choose the right verb!

Don't say 'do a suggestion' or 'give a suggestion', say **make/put forward/**

offer a suggestion:

He did some suggestions about how to improve our service.

He made some suggestions about how to improve our service.

社会・文化に関するもの

native *n*

Warning: one of the meanings of the noun **native** is offensive and old-fashioned.

To talk about the people who live in a particular place, don't say 'natives', say

local people:

The best way to learn the language is to get to know the natives.

The best way to learn the language is to get to know the local people.

5.1.3 LDOCE⁵とCALD³の両方にある項目

綴りに関するもの

該当項目なし

語の混同に関するもの

このタイプには、意味の混同 (e.g. **interesting** *adj*/interested)、品詞の混同 (e.g. **breath** *n*/breathe) などがある。(両版ともに () 中のゴシック体の語がノートをもつ)

ここでは意味の混同についてのものを見てみよう。

actual *adj*

LDOCE⁵ Do not use **actual** to mean 'at the present time'. Use **current** or **present**: *the current (NOT actual) economic policy*

CALD³ **Warning:** choose the right adjective!

To describe something that exists now, don't say 'actual', say **current**:

I am not at all happy in my actual job.

I am not at all happy in my current job.

コロケーションに関するもの

ここでは、「動詞+名詞」のパターンについて例を見てみよう。

mistake *n*

LDOCE⁵ Do not say 'do a mistake'. Say **make a mistake**.

CALD³ **Warning:** Choose the right verb!

Don't say 'do a mistake', say **make a mistake**:

I never do mistakes in my essays.

I never make mistakes in my essays.

社会・文化に関するもの

該当項目なし

5.2 **LDOCE⁵**と**CALD³**の学習者によく見られる誤りのタイプのうち、その他の語法・文法に関するものについて見てみよう。このタイプの誤りの項目が、**LDOCE⁵**にはあるが、**CALD³**にはない項目、**CALD³**にはあるが、**LDOCE⁵**にはない項目、**LDOCE⁵**と**CALD³**の両方にある項目、さらに、同じ語についての学習者によく見られる誤りでありながら、**LDOCE⁵**と**CALD³**で掲載している誤りの内容が異なる項目についてそれぞれ例を挙げてみよう。

5.2.1 **LDOCE⁵**にはあるが、**CALD³**にはない項目

(1) **anyone** *pron*

Do not use 'of' after **anyone**. Use **any of**: *Do any of these people have jobs?*

(2) **little** *adv*

You cannot use **a little** with an adjective before a noun. Use **rather** or **slightly**: *It was a rather strange situation (NOT a little strange situation).*

(3) **nice** *adj*

You can use **nice and** followed by another adjective after **be**: *The weather was nice and warm.* But before a noun you must leave out 'and' | *a nice hot (NOT nice and hot) drink*

5.2.2 **CALD³**にはあるが、**LDOCE⁵**にはない項目

(1) **big** *adj*

Remember: you do not usually use 'big' before uncountable nouns.

Don't say 'big progress/fun/shame/admiration', say **great progress/fun/shame/ admiration**:

My work is of big importance to me.

(2) **countryside** *n*

Remember: you usually use **the** before **countryside**:

They live in a beautiful cottage in countryside.

They live in a beautiful cottage in the countryside.

But before another noun, you do not have to use 'the':

The cottage is in a countryside location.

(3) **for** *conjunction*

Remember: **for** is only usually used to mean 'because' in old-fashioned or literary English.

In ordinary language, don't say 'for', say **because**:

Erik ate nothing for he was feeling sick.

Erik ate nothing because he was feeling sick.

5.2.3 LDOCE⁵とCALD³の両方にある項目

(1) **less** *determiner*

LDOCE⁵ Sometimes people use **less** before a plural noun, but many people think that this is incorrect, so it is better to use **fewer**, especially in writing: *There are fewer delays (NOT less delays).*

CALD³ Use **less** to refer to uncountable nouns.

Don't say 'less cars/facts/dollars', say **less traffic/information/money**.

With nouns that have a plural form, don't use 'less', use **fewer**:

There are less buses after 8 o'clock in the evening.

There are fewer buses after 8 o'clock in the evening.

Warning: Many English speakers use 'less' before nouns that have

a plural form, but some people consider this incorrect and it should not be used in exams.

両辞典ともに**less**は数えられない名詞とともに用い、数えられる名詞には**fewer**を用いることを促すノートである。

(2) **phone** *v*

LDOCE⁵ You do not 'phone to' someone or 'phone to' a number. **Phone** is followed immediately by a noun or number: *She phoned her friend Judy. | Phone 01279-623772 and ask to speak to Elaine.*

CALD³ Remember that **phone** is never followed by 'to'.

Don't say 'phone to someone', say **phone someone**:

Phone to me if you have any more questions.

Phone me if you have any more questions.

両辞典ともに**phone**の他動詞の用法に注意を促している。

(3) **tell** *v*

LDOCE⁵ Do not say 'tell that ...'. Say **tell someone that ...** or **say that ...**: *She told me (NOT She told) that she was a vegetarian. | She said that she was a vegetarian.*

CALD³ **Remember:** when **tell** is followed by a 'that' clause, it must have an indirect object.

Don't say 'tell that ...', say **tell someone that ...**:

Rory told that he was leaving.

Rory told Julie that he was leaving.

To make a sentence without an indirect object, don't use 'tell' use **say**:

Rory said that he was leaving.

両辞典ともに **tell** と **say** のとる構造の違いに注意を促すものである。

5.2.4 同じ語についての学習者によく見られる誤りでありながら、*LDOCE*⁵ と *CALD*³ で掲載している誤りの内容が異なる項目

(1) **how** *adv*

*LDOCE*⁵ Do not use **how** with 'think' to ask or talk about someone's opinion. Use **what**: *What do you think of your present employer?*

*CALD*³ **Warning**: check your word order!

When **how** is used in a main clause to ask a question, the verb comes before the subject:

How can we solve this problem?

When **how** is used in a subordinate clause to talk about the way something can be done, do not put the verb before the subject:

~~*I have been wondering how can we solve this problem.*~~

I have been wondering how we can solve this problem.

What do you think of ...? は、日本語では、「…についてどう思うか?」というので、学習者が **what** ではなく、誤って **how** を用いてしまうことに対する *LDOCE*⁵ のノートは、日本人学習者には特に役立つのではないだろうか。*CALD*³ は、**how** を用いた疑問文の語順に注意を促すものである。*CALD*³ には、例えば、**when** *adv* に関しては、この語順の誤りに関するノートはない。このことは、the Cambridge Learner Corpus の **how** と **when** の間のデータの違いを示すものだろうか。⁴⁾

(2) **important** *adj*

*LDOCE*⁵ When you mean that you care about something a lot, say that it is **important to** you, not that it is 'important for' you.

参考までに、**important** のエントリー中には以下の例文が掲載されている。

[+for] *It was important for the president to continue his schedule, regardless of the bomb threat.*

[+to] *Nothing could be more important to me than my family.*

(下線は筆者による)

*CALD*³ **Remember: important** must have a noun or pronoun that it refers to.

Don't say 'the important is', say **the important thing is**:

The important is that nobody was injured.

The important thing is that nobody was injured.

To talk about something that is more important than anything else, don't say 'the most important', say **the most important thing**:

The most important is to like the language you are learning.

The most important thing is to like the language you are learning.

*LDOCE*⁵ のノートは、**important** とともに用いられる前置詞 **to** と **for** の用法に関するものである。*CALD*³ は、**the (most) important thing is** のように **important** と共に名詞あるいは代名詞を用いることに注意を促している。

(3) **let** *v*

*LDOCE*⁵ Do not say 'be let to do something', because **let** has no passive form. Use the active form, or use **be allowed**: *They let me leave. | I was allowed to leave.*

CALD³ **Let** is followed by a verb in the infinitive without ‘to’.
Do not say ‘let someone to do something’, say **let someone do something**:

My parents don't let me to watch television after 9pm.

My parents don't let me watch television after 9pm.

*LDOCE⁵*は、**let**が受動態をとらないことに、*CALD³*は、**let**の後ろにto不定詞ではなく動詞の原形がくることへ注意を促している。

6 *LDOCE⁵*と*CALD³*の両辞典ともに、それぞれコーパスを活用しながら、生きた英語を提示し、学習者の必要性に合うように、一層 user-friendly な辞典を目指して改訂されていることがわかる。その特徴の一つとして表れているのが、両辞典が掲載する学習者コーパスに基づいた、学習者によく見られる誤りについてのノートであろう。本稿で紹介したものはそのごく一部であるが、このようなノートは、より自然で円滑な英語でのコミュニケーションを図るために、学習者にとっては役に立つであろう。*CALD³*では、**Common mistake** ボックスが設けられているため、*LDOCE⁵*の△が付されたノートと比べて、スペース的にもより多くの情報を掲載できていると言える。学習者が犯しやすい誤りの項目が、一方の辞典だけに見られるものもあれば、両辞典に見られる項目もあった。両辞典ともに掲載している項目は、学習者が特に誤りやすいものであると思われるため、学習者は注意するよう心がけるとよいだろう。また、一方の辞典にしか掲載されていない項目や、その他の語法・文法に関するタイプにおいて見たように、語によっては、それぞれの辞典が掲載している学習者が犯しやすい誤りの内容が異なる場合もあった。これらは、両辞典の基づく学習者コーパスデータの違いによるものであろうか。さらに、本稿では紙幅の都合で取り上げなかったが、語によっては、それぞれの辞典が掲載している学習者が犯しやすい誤りのタイプが異なる場合もある。これは、コーパスデータの違いによるものと考えられるが、辞典編纂において、それぞれの辞典が何に焦点を置くかによっても掲載する誤りのタイプの比重に違いが出てくることも考えられる。また、日本人の上級レベル

の学習者には必要ないのではないかとされる誤りのノートも見られるが、上級レベルの学習者でも、まだ基本的な誤りを犯しうると示すものであろうし、同じレベルの学習者でも、母語が異なれば犯しやすい誤りも異なることがありうるとも考えられる。いずれにしても、これらの学習者の犯しやすい誤りを参考にしながら、学習者にあわせて英語指導でも活用していきたいものである。

*LDOCE⁵*と*CALD³*のような、大規模なコーパスに基づき、変化していく言葉を反映するとともに、英語学習をサポートする学習者用辞典の役割は、ますます重要になっていくのではないだろうか。

Notes

- 1) *LDOCE⁵*は、**Common Error Notes** (p.xii) のように ‘error’ を、*CALD³*は、‘Common Mistake’ notes (p.Ⅷ)、‘**Common mistake**’ boxes (p.Ⅸ) のように ‘mistake’ を用いている。*LDOCE⁵*の editorial director である Michael Mayor 氏とケンブリッジ大学出版局に筆者が尋ねたところ、両者ともに、それぞれの辞典のノートあるいはボックスの名前において、‘error’ と ‘mistake’ は同じ意味で用いているとの回答であったため、本稿では、‘error’ と ‘mistake’ の両方に、日本語の「誤り」をあててある。
メールの回答内容を引用しておこう。Michael Mayor 氏からの回答には、ELT において、‘common error’ のほうが、‘common mistake’ よりもコロケーションの上で使用頻度が高いことなどが述べられていて興味深い。
*LDOCE⁵*について
‘The terms “error” and “mistake” do generally mean the same - although “common error” is a more frequent collocation than “common mistake” in English Language Teaching. Error also sounds slightly more formal’. (Michael Mayor, Editorial Director, Longman Dictionaries & Penguin Readers. e-mail message to author. 7 May 2009.)
*CALD³*について
‘There is no difference in the meaning of the words (“error” and “mistake”) in *CALD³*’. (Bennett Richardson, Academic and Professional Representative Cambridge University Press Japan. e-mail message to author. 7 May 2009.)
- 2) *Longman Dictionaries*. 2009. Pearson Education Limited.
<<http://www.pearsonlongman.com/dictionaries/>> (accessed 3 May 2009).
English Language Teaching. 2009. Cambridge University Press.
<<http://www.cambridge.org/elt/>> (accessed 3 May 2009).
- 3) Cambridge ESOL とは、UCLES (the University of Cambridge Local Examination Syndicate) の一部である。
- 4) *LDOCE⁵*の **how adv** のエントリーにはもう一つ△の付いた以下のノートがある。
LDOCE⁵ Do not use **how** with ‘look like/feel like/be like’ to ask for or talk about a

description of someone or something. Use **what**: *What does she look like?*

こちらの項目に関しては、CALD³の**like prep**のエントリーに、**like**とともに用いられるのは**how**ではなく**what**であるという次のようなノートがある。

CALD³

Warning: choose the correct pronoun!

Don't say 'how is sb/sth like?' or 'how sb/sth is like', say **what is sb/sth like?**

or **what sb/sth is like:**

How is life like in England?

What is life like in England?

I want to find out what life is like in England.

The Cambridge Learner Corpusでは、学習者が**how**と**what**を間違えて用いるのは、この**like**が用いられる表現によく見られるということであろうか。

References

Cambridge Advanced Learner's Dictionary. 2nd ed. 2003. Cambridge: Cambridge University Press. (CALD²)

Cambridge Advanced Learner's Dictionary. 3rd ed. 2008. Cambridge: Cambridge University Press. (CALD³)

Longman Dictionary of Contemporary English. 4th ed. 2003, 2005. Harlow: Pearson Education Limited. (LDOCE⁴)

Longman Dictionary of Contemporary English. 5th ed. 2009. Harlow: Pearson Education Limited. (LDOCE⁵)

Longman Dictionaries. 2009. Pearson Education Limited.

<<http://www.pearsonlongman.com/dictionaries/>>.

English Language Teaching. 2009. Cambridge University Press.

<<http://www.cambridge.org/elt/>>.